

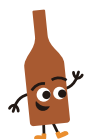
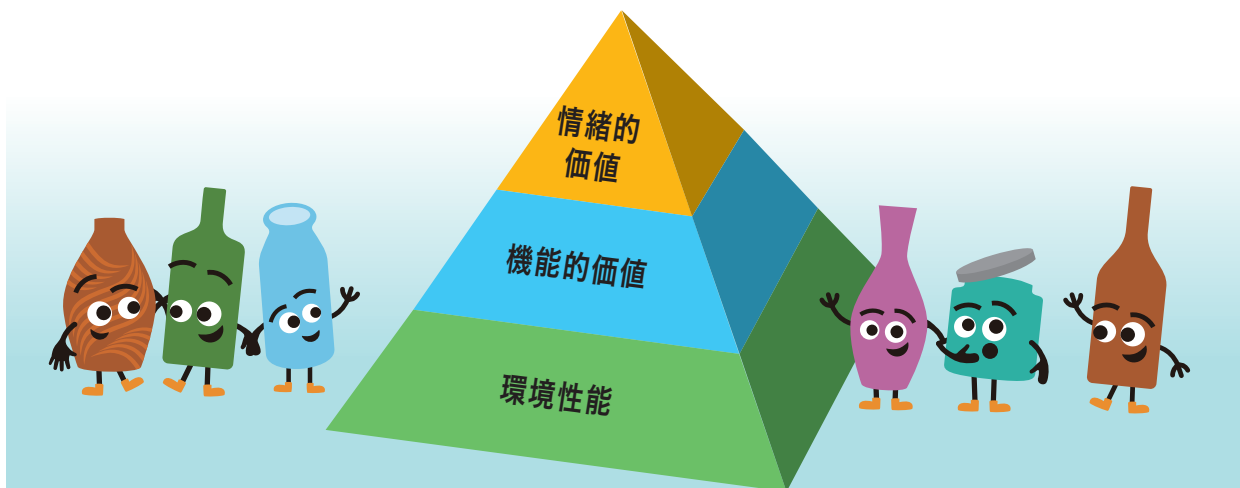
容器としての魅力が満載！

## ガラスびんの機能と価値を再認識

現在使われている主な容器の中でガラスびんはもっとも古くから使われています。

ガラスびんの後に登場してきた容器はガラスびんにはない機能を備えていますが、ガラスびんには他の容器よりも優れた機能や代替できない機能と価値があります。

容器としてガラスびんの機能と価値を再認識してみましょう。



### ガラスびんの機能的価値と情緒的価値

容器としての機能面・品質面の価値に加え、消費者が体感できる精神的な付加価値がある。

商品やサービスが顧客に与える価値はいろいろありますが、ブランディングでは「機能的価値」と「情緒的価値」に整理して考えることができるといわれています。

「機能的価値」とは、機能面や品質面で提供できる価値のことです。具体的な機能的特徴やスペックで競合商品やサービスと比較して優位性のある機能で、数値化が可能で製品やサービスの優劣が分かりやすいという特徴があります。

「情緒的価値」とは、その商品やサービスを使用した際に消費者が体感できる精神的な付加価値のことを指します。その商品やサービスの持つ機能面での利便性などの価値ではなく、その商品やサービスを

使用することで得られる満足感や幸福感といった顧客の感情に訴えかける価値のことです。

「機能的価値」は、その商品やサービスの土台となる価値であり、「情緒的価値」は土台となる「機能的価値」があって初めて成立し、「機能的価値」と「情緒的価値」が相まって、その商品やサービスの「魅力」となります。

つまり、「機能的価値」は「情緒的価値」の大前提であり、いくら「情緒的価値」が高くても「機能的価値」が劣っていれば、消費者はその商品やサービスに「魅力」を感じず、選択してくれません。容器であるガラスびんの「機能的価値」と「情緒的価値」を考えてみましょう。

# ガラスびんの素材適性がもつ機能と価値が、サステナブルな未来に貢献します



## ガラスびんの「機能的価値」

中身の保護や保存などの容器の基本機能に加え、優れた安定性・耐候性・衛生性がリユースに最適

ガラスびんは他素材の容器と比較して「重い」、「割れやすい」といったネガティブな特徴だけが指摘されがちですが、ガラスびんには他素材の容器にはない、ガラスびん固有の優れた「機能的価値」があります。残念ながら、これらの「機能的価値」はきちんと認識されておらず、他素材の容器も同様・同等の「機能的価値」を有していると

誤認されているようです。

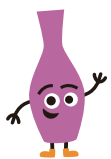
これらの「機能的価値」は中身の保護・保存に最適であり、容器に求められている基本的かつ最重要なものです。

また、ガラスびんは【安定性】、【耐候性】、【衛生性】に優れた「機能的価値」のため、リユースに最適な容器です。

### ガラスびんの優れた「機能的価値」

<b>安定性</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 化学的に安定し、酸や有機溶媒などに侵されにくい</li><li>● ある程度高温でも安定した強度がある</li><li>● 温度により体積が増減しない</li></ul>	<b>汎用性</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 飲料、調味料、薬品、アロマオイル、化粧品などに幅広い用途で使用可能</li></ul>
<b>耐候性<sup>*1</sup></b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 長期の使用に強い</li><li>● 太陽光、温度、湿度、酸素、塩害などによる、変形、変色、劣化を起こしにくい</li></ul>	<b>衛生性</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 細菌などがつきづらい</li><li>● 内容物の香味や成分を吸着しない</li></ul>
<b>保存性</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ガスバリア性が高い（空気を通さない）</li></ul>	<b>安全性</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 合成化学物質などの有害物質を含まない</li><li>● 自然界に存在する「天然素材」（けい砂・石灰石・ソーダ灰）だけを使用</li><li>● 容器の成分が溶出しない</li></ul>

\*1：素材が持つ自然環境に対する耐性



## ガラスびんの「情緒的価値」

デザイン性に優れ、視覚や触覚で高級感やブランドイメージの演出が可能

ガラスびんは「情緒的価値」にも優れています。この「情緒的価値」も他素材の容器にはない、ガラスびん固有のものであります。容器としてのガラスびんの

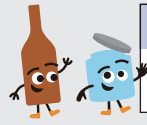
「情緒的価値」は内容物の「情緒的価値（ブランド）」を視覚や触覚で消費者に伝え、ブランドイメージを助長することができます。

このため、嗜好性の高い高級なウイスキーや日本酒、化粧品、香水などの商品でデザイン性に富んだガラスびんが使われ、消費者の喜びや誇り、期待、幸福感を演出しています。そのガラスびんを見ると特定のブランドが想起できることから、立体商標として登録されているのも、ガラスびんが持つ「情緒的価値」の一例といえそうです。

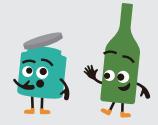
また、同じ内容物でもガラスびんから飲むと美味しく感じるという方もいらっしゃる、ガラスびんが内容物の味覚イメージの向上にも役立っています。

### ガラスびんの優れた「情緒的価値」

<b>デザイン性</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 形状・色・質感などデザインの自由度が高い</li><li>● プリントや加飾など演出ができる</li></ul>
<b>触感</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● なめらかな触感・冷涼感</li><li>● 手触り、口触りがいい</li></ul>
<b>高級感</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 光沢がある</li><li>● 重厚感がある</li><li>● 硬質でシャープな質感がある</li></ul>



容器としての魅力が満載！  
ガラスびんの機能と価値を再認識



## ガラスびんの「環境性能」

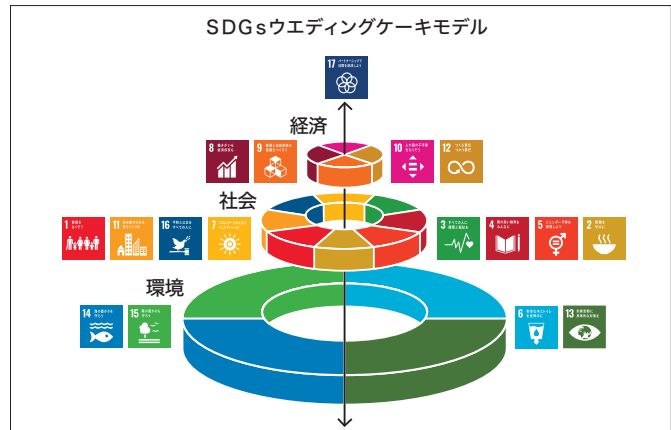
天然素材から生まれたガラスびんは、リユース・リサイクル適性に優れた、社会の環境問題の課題解決に向けて貢献できる容器

このように、ガラスびんは「機能的価値」と「情緒的価値」に優れていますが、環境性能にも優れています。気候変動やプラネタリー・バウンダリー\*2 が地球規模の課題となっている昨今、SDGsウエディングケーキモデル\*3 が示すように、環境なくして社会は成り立たず、社会なくして経済の発展はありません。

容器についても、同様に考えることが必要です。つまり、「機能的価値」と「情緒的価値」の土台に「環境性能」があるということです。

また、ガラスびんはプラスチックを一切使用せず液体も充填できる唯一の容器であり、ガラスびん自体は有害物質を含まず、汚染物質を吸着も溶出もしないため、海洋プラスチックごみ問題を引き起こしません。

優れた「環境性能」を有するガラスびんは、サス



テナブルな未来のために必要な容器であり、サステナブルな未来でも使い続けられている容器であってほしいと思います。

\*2：地球の環境に変化（とくに人間の影響）が加わってももとの状態に戻り、地球環境が安定した状態を保てる限界の範囲を示したもの  
\*3：環境学者ヨハン・ロックストローム氏と環境経済学者バヴァン・スクデフ氏が提唱した、持続可能な開発の三側面、経済・社会・環境についてのSDGsの考え方を図式化したもの

### ガラスびんの優れた「環境性能」

<p><b>リユース適性</b></p> <p>【安定性】、【耐候性】、【衛生性】に優れているため、何回もくり返し使用が可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リユースすることで新たに容器を製造する必要がなくなり、天然資源を節約</li> <li>ワンウェイよりもエネルギーが少なく済み、GHG排出量を削減</li> <li>ごみにならないため、廃棄物排出量を削減</li> </ul>	<p>資源循環</p> <p>脱炭素</p> <p>廃棄物削減</p>
<p><b>水平リサイクル特性</b></p> <p>びんからびんへのリサイクルが容易何回リサイクルしても品質や純度が劣化しないため、永久に水平リサイクルが可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バージン原料の使用量を減らせ、天然資源を節約</li> <li>リサイクル劣化しないため、何回でもリサイクルでき、天然資源を節約</li> <li>カレット（再生原料）の方が昇温速度が速いため、エネルギーが少なく済み、GHG排出量を削減</li> <li>リサイクルすることで廃棄物排出量を削減</li> </ul>	<p>資源循環</p> <p>脱炭素</p> <p>廃棄物削減</p>
<p><b>国内完結リサイクル</b></p> <p>水平リサイクル以外の多様な用途があるため、国内でリサイクルが完結</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外情勢の影響を受けない</li> <li>安定的なリサイクルを継続できる</li> </ul>	<p>資源循環</p>
<p><b>環境保全</b></p> <p>環境汚染を引き起こさず、拡大もさせない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチックを使用せずに、どんな液体でも充填可能</li> <li>有害物質を含まず、汚染物質を吸着も溶出もしないため、環境汚染を引き起こさない</li> <li>有害物質や汚染物質のキャリアー（運搬者）にならないため、環境汚染を拡大させない</li> </ul>	<p>自然再興</p>

1月25日

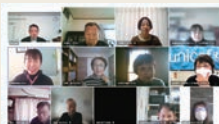
## 「ガラスびん3R促進情報交換会」を開催

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットとの共催で、地域のキーパーソンを対象にした「ガラスびん3R促進情報交換会」を開催し、23名が参加しました。

容器包装の中でも、リユース可能で、何回でも水平リサイクルできるガラスびん。これまで以上にCO<sub>2</sub>排出量削減が求められ、国際状況の変化による中長期的な安定した資源確保の不確実性の増大から、廃棄物の再資源化を含めた資源の効率的・循環的な利用が急務となっている昨今、消費者の意識改革と役割が大きく期待されています。

今回の情報交換会では、当協議会の田中（事務局長）から、ガラスびん3Rの最新情報の提供、ゼロ・ウェイスト・スーパー

「斗々屋 京都本店」視察の報告、一升びんのリユースに関する動画を視聴、最後に「びんの3R検定」を参加者全員で行い、会場参加の皆さまにはガラスびん3R博士認定書を授与しました。



## 3R推進団体連絡会関連の報告

2月2日

### 「第18回容器包装3R推進フォーラム」を開催

3R推進団体連絡会の主催により、専売ホール（東京都港区）にて開催されました。

当日は経済産業省・環境省・農林水産省からの報告、3R推進団体連絡会の「自主行動計画2025」の2022年度フォローアップ報告がありました。次に、(国研)国立環境研究所 資源循環 領域長 大迫政浩氏による基調講演「容器包装の3R・資源循環 近未来の資源循環を考える」に続いて、仙台市、(株)セブン・イレブン・ジャパン、市民団体から事例報告があり、パネルディスカッションも行われました。



2月21日

### 「容器包装交流セミナー in 宇都宮」に参加

3R推進団体連絡会と3R活動推進フォーラムの共催による「第27回 容器包装交流セミナー」がライトキューブ宇都宮で開催されました。

当日は環境省、3R推進団体連絡会からの挨拶の後、開催地の宇都宮市とNPO団体の事例紹介、同連絡会の取り組み実績報告と続き、参加者によるグループディスカッションが行われました。

2月22日

### 「びんリユース地域交流会 in 大阪」に参加しました

びんリユース推進全国協議会並びに大阪びんリユース推進協議会の主催による「びんリユース地域交流会 in 大阪」がエル・おおさか南館にて開催されました。

松井康弘氏（岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域准教授）の「将来に向けたびんリユースの在り方」と題した基調講演をはじめ、関西エリアでびんリユースを活発に展開されている3事例の紹介とステークホルダーミーティングが行われました。



3月3日

### 「第24回こどもまつり」に出展

新宿リサイクル活動センターで催された「第24回こどもまつり」にNPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットと共同出展しました。啓発ツール『ガラスびん3Rクイズdeビンゴ』を用いたイベントを行い、お子さんを中心とした多くの来場者の皆さんに楽しみながらガラスびんの3Rを知っていただきました。

